# Ⅱ　調査結果要旨

# Ⅱ　調査結果要旨

## 1　社会における制度・慣行について

### 1. 静岡県における男女共同参画の機会の確保

**男女共同参画の機会が確保されていると『思う』人は37.5%。**

本県において、男女が性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思うかたずねたところ、『思う』(「思う」＋「どちらかといえばそう思う」) が37.5%、『思わない』(「思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」) 35.6%と、『思う』がやや上回っています。

性別でみると、『思う』は男性が45.6%、女性が30.7%、『思わない』は男性が32.1%、女性が38.5%と男女間で差がみられます。

性・年代別でみると、男性は30歳～39歳で『思う』が53.5%、60歳～69歳で『思わない』が42.6%とそれぞれ他の年代より高くなっています。女性は18歳～29歳で『思う』の割合が48.1%と高く、60歳～69歳、70歳以上では『思わない』が約半数を占め他の年代より高くなっています。

経年比較でみると、令和元年以降『思う』が少しずつ高く、『思わない』が少しずつ低くなり、令和８年度に『思わない』を逆転しています。

### 2. 社会全体における男女平等感

**社会全体において『男性優遇』と感じている人は62.3%。**

社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思うかたずねたところ、『男性優遇』(「男性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」) が62.3%、「平等」が11.9%、『女性優遇』(「どちらかといえば女性が優遇されている」＋「女性が非常に優遇されている」) が11.9%となっています。

性別でみると、『男性優遇』は男性が52.6%、女性が70.9%と男女間で差がみられます。

年代別でみると、60歳～69歳、70歳以上で『男性優遇』が７割以上となっており、他の年代より高くなっています。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合が減少傾向にあります。

### 3. 各分野における男女平等感

**【家庭生活】【職場】【地域】【政治の場】【社会通念・慣習・しきたり】で『男性優遇』と感じる割合が高い。**

６つの分野において男女が平等になっていると思うかたずねたところ、『男性優遇』(「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」) と『女性優遇』(「どちらかといえば女性が優遇」＋「女性が非常に優遇」) の比較では、すべての分野で『男性優遇』が上回っています。

最も『男性優遇』の割合が高かったのは【⑤政治の場で】が72.4%、次いで【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】が71.9%となっています。また、【①家庭生活で】(51.3%)、【②職場で】(53.2%)、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど)】(43.6%) となっています。

最も「平等」の割合が高かったのは【③学校教育の場で】が48.0%で、半数近くが「平等」と感じています。また、【①家庭生活で】(28.7%)、【②職場で】(22.6%)、【④地域で（自治会・自主防災会・NPOなど)】(26.1%) が２割以上となっています。

## ４. 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

**男女の役割を固定的に考えることは『反対』が71.7%。**

男女の役割を固定的に考えることについてたずねたところ、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）は71.7%、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）は17.6%となっています。

性別でみると、『反対』は男性が65.1%、女性が77.4%となっており、男女間で差がみられます。

年代別でみると、『反対』は60歳～69歳で77.9%、30歳～39歳で77.5%となっています。

## ５. 男女の役割を固定的に考えることに反対の理由

**反対の理由は「個人の能力や希望を尊重すべきだと思うから」が70.1%。**

男女の役割を固定的に考えることに反対の理由をたずねたところ、「個人の能力や希望を尊重すべきだと思うから」が70.1%と最も高く、次に「一律に決めつけるのは時代遅れだと思うから」が57.0%、「多様な人材が活躍することで、創造性が高まるなど、経済成長につながると思うから」が38.4%、「役割が固定されることで、男性の長時間労働の助長や女性の経済的自立の阻害など、社会的に悪影響を及ぼすと思うから」が35.1%となっています。

性別でみると、「個人の能力や希望を尊重すべきだと思うから」が男性は67.1%、女性は72.1%となっています。

## ６. 男女の役割を固定的に考えることに賛成の理由

**賛成の理由は「性別により適性が異なると思うから」が52.0%。**

男女の役割を固定的に考えることに賛成の理由をたずねたところ、「性別により適性が異なると思うから」が52.0%と最も高く、次に「性別により役割を分担した方が、家族の安定や子どもの成長によい影響を与えると思うから」が39.0%、「実情として、社会には性別役割分担に基づいた制度、慣習があるため、女性の就業や男性の家事・育児への参加は負担が大きいと思うから」が36.6%、「性別により役割を分担した方が、効率的で、経済成長につながると思うから」が25.2%となっています。

性別でみると、「性別により適性が異なると思うから」が男性は45.2%、女性は62.0%となっており、男女間で差がみられます。

## ７. 地域や勤務先での男女の役割の現状

**【自治会長などの重要な役職は男性の仕事】は73.5%、**
**【地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事】は67.5%が『ある』。**

【①地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が67.5%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が19.5%となっています。

【②自治会長などの重要な役職は男性の仕事】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が73.5%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が9.4%となっています。

【③男性は正社員であるべき、女性は非正規社員でもよい】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が31.4%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が47.0%となっています。

【④職場でのお茶出しやコピーなどの雑務は女性の仕事】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が

37.6%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が40.4%となっています。

【⑤職場では、性別により業務内容や昇任・昇給のスピードに差がある】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が39.1%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が31.1%となっています。

【⑥子どもが生まれたら、女性は仕事を控えめにした方がよい】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が45.6%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が32.3%となっています。

【⑦男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が29.6%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が51.0%となっています。

【⑧家を継ぐのは男性がよい】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が41.0%、と『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が39.3%となっています。

【⑨家事・育児・介護は女性の仕事】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が52.4%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が34.9%となっています。

【⑩個人の価値観よりも世間体が大事】は、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）が45.0%、『ない』（「あまりない」＋「全くない」）が37.1%となっています。

## 8. 地域や勤務先における男女の役割についての考え

**【職場でのお茶出しやコピーなどの雑務は女性の仕事】は82.6%、**
**【男性は正社員であるべき、女性は非正規社員でもよい】は81.7%が『反対』。**

【①地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が25.2%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が63.9%となっています。

【②自治会長などの重要な役職は男性の仕事】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が32.4%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が52.6%となっています。

【③男性は正社員であるべき、女性は非正規社員でもよい】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が8.4%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が81.7%となっています。

【④職場でのお茶出しやコピーなどの雑務は女性の仕事】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が7.0%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が82.6%となっています。

【⑤性別により適した業務内容が異なるため、昇任・昇給のスピードにも差をつける方がよい】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が12.7%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が71.3%となっています。

【⑥子どもが生まれたら、女性は仕事を控えめにした方がよい】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が28.3%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が57.4%となっています。

【⑦男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が10.4%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が77.1%となっています。

【⑧家を継ぐのは男性がよい】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が17.1%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が62.9%となっています。

【⑨家事・育児・介護は女性の仕事】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が10.5%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が80.2%となっています。

【⑩個人の価値観よりも世間体が大事】は、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が8.0%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）が78.6%となっています。

# ２　男女共同参画に関する教育・学習について

## １. 人権の尊重、男女平等を推進する教育

**人権の尊重、男女平等を推進する教育を行う場は**
**“学校教育の場”が58.1%、“家庭教育の場”が19.4%。**

人権の尊重、男女平等を推進する教育を主にどこで行うべきだと考えるかとたずねたところ、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」が58.1%と最も高く、次に「家族による家庭教育の場において行う」が19.4%、「職場などの社内教育の場において行う」が8.7%となっています。

性別でみると、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」は、男性が60.6%、女性が56.1%となっています。

性・年代別でみると、男性の30歳～39歳、40歳～49歳、女性の18歳～29歳、30歳～39歳で「職場などの社内教育の場において行う」の割合が他の年代より高くなっています。

## ２. 子どもが男の子の場合の親の希望

**子どもが男の子の場合の希望は「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が48.0%。**

子どもが男の子の場合の親の希望については「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が48.0%と最も高く、次に「安定した仕事に就いた方がよい」が47.6%、「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」が29.8%となっています。

性別でみると、男性は「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が48.1%、女性は「安定した仕事に就いた方がよい」が51.4%と最も高くなっています。

## ３. 子どもが女の子の場合の親の希望

**子どもが女の子の場合の希望は「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が46.7%。**

子どもが女の子の場合の親の希望については「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が46.7%と最も高く、次に「安定した仕事に就いた方がよい」が43.9%、「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」が41.4%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「能力や学んだことを活かせる仕事に就いた方がよい」が最も高く、それぞれ49.0%、44.5%となっています。

# ３　パートナー間の暴力について

## １. ドメスティック・バイオレンスの経験

**過去1年間に男性の1.5%、女性の5.9%が「暴力を受けたことがある」。**

過去１年間に、ドメスティック・バイオレンスについて、経験したり見聞きしたりしたことについてたずねたところ、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が59.6%と最も高く、次に「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が23.0%となっています。また、「暴力を受けたことがある」は4.0%、「経験したり見聞きしたりしたことはない」は19.7%となっています。

性別でみると、「暴力を受けたことがある」は男性が1.5%、女性が5.9%となっています。

## 2. ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

**「平手で打つ、足でける、なぐる」「性的な行為を強要する、避妊に協力しない」は8割以上が暴力だと思う行為。**

７つの行為について夫婦・恋人など親しい間柄にあるパートナー間で行われた場合、それを暴力（ドメスティック・バイオレンス）だと思うかをたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、「①平手で打つ、足でける、なぐる」、「⑦性的な行為を強要する、避妊に協力しない」が８割以上となっています。

## 3. ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

**暴力をなくすために重要なことは「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が52.0%。**

ドメスティック・バイオレンスをなくすためには、どうしたらよいと考えるかについては「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が52.0%と最も高く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」が45.7%、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届け出しやすい環境をつくる」が38.6%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が最も高く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」となっています。また、女性が男性より高い割合となっている項目は「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届け出しやすい環境をつくる」(11.2ポイント差)、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」(10.1ポイント差) などとなっています。

# 4　男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

## 1. 家庭での役割分担

**「夫は外(家計を支える、地域活動を行う)、妻は家庭(家事や家計の管理、育児やしつけ)」という性別役割分業の状況がみられる。**

家庭での役割分担についてたずねたところ、『主に妻』(「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」) の割合の高い項目は、【②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする】が77.6%、【④日々の家計の管理をする】が64.0%、【⑤育児、子どものしつけをする】が53.0%などとなっています。『主に夫』(「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」) の割合の高い項目は、【①家計を支える（生活費を稼ぐ)】が71.8%、【⑦自治会・町内会などの地域活動を行う】が52.0%などとなっています。

「夫と妻が同程度」の割合が高い項目は【⑧子どもの教育方針や進学目標を決める】が56.0%、【⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める】が50.5%となっています。

## 2. 家事にかける時間

### ①あなた（回答者）の家事にかける時間

**男性は平日、休日ともに「1分～2時間」、女性は平日、休日ともに「2時間超～4時間」が最も高く、女性の平日の平均家事時間は男性の約3.2倍。**

回答者が家事にかける時間は、男性の場合、平日は「１分～２時間」が79.3%、休日も同様に「１分～

２時間」が71.9％と最も高く、女性の場合、平日は「２時間超～４時間」が39.9％、休日も同様に「２時間超～４時間」が42.6％と最も高くなっています。

男性の１日あたりの家事平均時間は、平日1.34時間、休日1.74時間となっています。また、女性の１日あたりの家事平均時間は、平日4.25時間、休日4.29時間となっており、女性の家事平均時間は、男性の家事平均時間と比べると平日は約3.2倍、休日は約2.5倍となっています。

### ②配偶者の家事にかける時間

**家事平均時間は、男性の配偶者（主に女性）は平日3.59時間、休日3.64時間、女性の配偶者（主に男性）は平日0.93時間、休日1.29時間、男性の配偶者（主に女性）の、平日の平均家事時間は女性の配偶者（主に男性）の約3.9倍。**

配偶者が家事にかける時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、最も高かったのは「２時間超～４時間」で、平日は47.3％、休日は38.3％となっています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、最も高かったのは「１分～２時間」で、平日は73.4％、休日は74.1％となっています。

配偶者の１日あたりの家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日3.59時間、休日3.64時間となっています。また、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日0.93時間、休日1.29時間となっています。平日の配偶者の家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約3.9倍となっています。休日の配偶者の家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約2.8倍となっています。

## ３．育児にかける時間

### ①あなた（回答者）の育児にかける時間

**男性は平日、休日ともに「1分～2時間」、女性は平日、休日ともに「10時間超」が最も高く、女性の平均育児時間は平日で男性の約5.7倍、休日で男性の約2.5倍。**

回答者が育児にかける時間は、男性の場合、平日は「１分～２時間」が79.6％、休日も同様に「１分～２時間」が45.7％と最も高く、女性の場合、平日は「10時間超」が26.2％、休日も同様に「10時間超」が35.4％と最も高くなっています。

男性の１日あたりの育児平均時間は、平日1.32時間、休日3.40時間となっています。また、女性の１日あたりの育児平均時間は、平日7.56時間、休日8.61時間となっています。女性の育児平均時間は、平日で男性の約5.7倍、休日で男性の約2.5倍となっています。

### ②配偶者の育児にかける時間

**育児平均時間は、男性の配偶者（主に女性）は平日5.47時間、休日5.73時間、女性の配偶者（主に男性）は平日1.47時間、休日3.57時間、男性の配偶者（主に女性）の、平日の平均育児時間は女性の配偶者（主に男性）の約3.7倍。**

配偶者が育児にかける時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日は「２時間超～４時間」が40.1％、休日も同様に「２時間超～４時間」が36.7％と最も高く、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日は「１分～２時間」が70.3％、休日も同様に「１分～２時間」が51.0％と最も高くなってい

ます。

配偶者の１日あたりの育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日5.47時間、休日5.73時間となっています。また、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日1.47時間、休日3.57時間となっています。平日の配偶者の育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約3.7倍となっています。休日の配偶者の育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約1.6倍となっています。

### 4. 男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

**「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.3%。**

男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.3%と最も高く、次に「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が58.9%、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が57.7%となっています。

性別でみると、全ての項目で女性が男性より高い割合となり、「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（14.1ポイント差）、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（13.9ポイント差）、「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」（12.1ポイント差）などとなっており、男女間で差がみられます。

## 5　意思決定の過程への女性の参画について

### 1. 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

**「社会的･文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が53.0%。**

管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が53.0%と最も高く、次に「女性は継続して勤務することが困難であるから」が40.3%、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が36.0%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が最も高く、それぞれ47.1%、58.5%となっています。一方、男性が女性より高い割合となっている項目は「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」（14.9ポイント差）、女性が男性より高い割合となっている項目は「女性は継続して勤務することが困難であるから」（14.8ポイント差）、「家族の理解や協力が得られにくいから」（12.0ポイント差）、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」（11.4ポイント差）などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

### 2. 女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由

**「社会的･文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が61.9%、**
**「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が53.4%。**

地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が61.9%と最も高

く、次に「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」が53.4%、「活動時間帯が女性に合っていないから」が28.9%となっています。

性別でみると、「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」は男性が女性より高い割合となり（12.2ポイント差）、「活動時間帯が女性に合っていないから」は女性が男性より高い割合（13.9ポイント差）となっています。

# 6　男女が共に能力を発揮できる就業環境について

## 1. 女性が働く上で障害となること

**「結婚･出産時の退職等の慣行」が55.3%、**
**他には育児休業･介護休業の取得や制度が取得しにくい環境、長時間労働や残業が上位。**

継続して女性が働く上での障害についてたずねたところ、「結婚・出産時の退職等の慣行」が55.3%と最も高く、次に「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」が43.1%、「長時間労働や残業」が42.0%、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」が40.4%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」（19.3ポイント差）、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」（19.0ポイント差）、「月経や更年期等の女性特有の健康課題」（17.8ポイント差）などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

## 2. 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組

**男性、女性ともに「育児･介護に係る施設、サービスの充実」が最も高くなっているが、**
**女性は75.7%、男性は56.3%と差がみられる。**

女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思うかたずねたところ、「育児・介護に係る施設、サービスの充実」が66.7%と最も高く、次に「企業等への女性参画についての意識啓発や情報提供」が39.7%、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」が33.0%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「育児・介護に係る施設、サービスの充実」（19.4ポイント差）などとなっており、男女間で差がみられます。

# 7　地域社会の一員としての活動について

## 1. 仕事と家庭生活、個人・地域の生活の希望優先度

**生活の希望優先度は“「仕事」と「家庭生活」の優先”が30.1%、“「家庭生活」の優先”が18.0%。**

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活」の優先度の希望についてたずねたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が30.1%と最も高く、次に「「家庭生活」を優先したい」が18.0%、「「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい」が15.4%となっています。

性別でみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」は男性が33.3%、女性が27.2%と最も高くなっています。

## 2. 仕事と家庭生活、個人・地域の生活の優先度の現実

**男性は“「仕事」を優先”が30.0%、女性は“「仕事」と「家庭生活」をともに優先”が25.1%。**

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活」の優先度の現実についてたずねたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が23.9%と最も高く、次に「「仕事」を優先している」が23.3%、「「家庭生活」を優先している」が19.6%となっています。

性別でみると、男性は「「仕事」を優先している」が30.0%で最も高く、次に「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が22.6%、女性は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が25.1%で最も高く、次に「「家庭生活」を優先している」が24.5%となっています。また、「「仕事」を優先している」は男性が女性より高い割合となり（12.7ポイント差）、「「家庭生活」を優先している」は女性が男性より高い割合（10.4ポイント差）となっています。

# 8　実践的な取組の推進について

## 1.「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用について

**「静岡県男女共同参画センターあざれあ」については「知らない」が59.0%。**

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用についてたずねたところ、「利用したことがある」が11.4%、「知っているが、利用したことはない」が27.6%、「知らない」が59.0%となっています。

性別でみると、『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）が、男性は37.0%、女性は40.7%となっています。

地域別でみると、『知っている』が所在地の中部では60.0%となる一方、東部、西部では「知らない」の割合がそれぞれ67.1%、69.6%となっています。

## 2.「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

**「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割は**
**「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が35.7%。**

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割についてたずねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が35.7%と最も高く、次に「男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）」が24.0%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」がそれぞれ32.7%、38.3%で最も高くなっています。

地域別でみると、すべての地域で「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が最も高く、東部で34.3%、中部で40.9%、西部で31.9%となっています。

# 9　その他（男女共同参画関係・性の多様性等）について

## 1. 男女共同参画関係・性の多様性等に関する知識

**【静岡県パートナーシップ宣誓制度】は『知っている』が30.7%、**
**【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は『知っている』が75.8%、**
**【リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】は「知らない」が84.0%。**

【①静岡県パートナーシップ宣誓制度】については、「知っている」が10.1%、「聞いたことがある」が20.6%、「知らない」が66.6%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が30.7%となっています。

【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】については、「知っている」が51.7%、「聞いたことがある」が24.1%、「知らない」が22.0%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が75.8%となっています。

【③リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】については、「知っている」が3.6%、「聞いたことがある」が9.6%、「知らない」が84.0%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が13.2%となっています。

## 2. 性的マイノリティの方が身近にいるか

**性的マイノリティの方は身近に「いると思う」が23.9%。**

周りに性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方がいるかたずねたところ、「いると思う」が23.9%、「いないと思う」が43.1%、「わからない」が30.9%となっています。

## 3. 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別への対策

**対策で必要なものは「子どもに対する教育や啓発」が50.9%、**
**「社会環境(トイレ・更衣室等)の整備」が45.6%。**

性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性のあり方にかかわらず全ての人が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要と思うかたずねたところ、「子どもに対する教育や啓発」が50.9%と最も高く、次に「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」が45.6%、「社会制度（法制度等）の整備」が39.9%、「教育現場における環境整備」が38.4%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」（18.1ポイント差)、「子どもに対する教育や啓発」（15.7ポイント差)、「行政サービスの見直し（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等)」（15.6ポイント差)などとなっており、男女間で差がみられます。

## 4. 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

**「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が44.7%、**
**「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」が41.7%。**

男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組をたずねたところ、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が44.7%と最も高く、次に「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」が41.7%、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」が36.7%、「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を発揮できる就業環境づくり」が34.7%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」(19.9ポイント差) などとなっており、男女間で差がみられます。